

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 館事業参加市民】		
目的・目標		事業の概要	
学芸員の研究成果が特別展で公開され、市民の知的共有財産となっています。		学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数				単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館まつりの開催日数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	138	150	150	150		
	実績	159	157	192	162		
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数				単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	13	20	20	20		
	実績	20	33	41	27		
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	37000	37000	38000	38000		
	実績	31728	44664	38062	32939		
成果指標②	指標名	図録売上部数				単位	部
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	500	550	550	550		
	実績	644	503	561	822		

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	特別展は博物館の調査研究、市民との協働調査の成果を周知する機能を発揮しています。特別展図録の販売数からも、平成22年度の事業内容が高く評価されたことがわかります。	● 高 ○ 低
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	特別展は、見たい、知りたい、という市民の知的要求に、実調査に基づいた高い水準で応えています。また刊行図録は、現在のみならず将来の市民の要求にも対応した、市の情報資産として蓄積されるものとなります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>□ 受益者負担、補助額</li> <li>□ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	調査研究、とくに市民との協働による調査成果を踏まえつつ、展示や各種講座等を行うことは、地域の人とともに活動し、文化資産としての物や情報を蓄積する、地域博物館の使命と合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>□ コスト削減の可能性</li> <li>□ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	調査資料、写真データの整理等に館独自のシステムを構築し、展示制作に活用しています。入力作業には調査から関わる市民が自らの手で進めている領域もあり、意義のある効率化が行われています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		「平塚の地盤展」などの特別展の開催	「金目川展」などの特別展の開催	「相模川の水運展」などの特別展の開催	地質部門等の特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,933	0	1,301	1,234
	一般財源	6,259	6,634	4,520	5,079
事業費 (A)		8,192	6,634	5,821	6,313
執行率 (%)		108.12	87.55	73.42	98.87
内訳	職員 (人)	0.85	0.85	1.20	0.95
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	7,133	10,028	7,847
フルコスト (A+B)		15,325	13,767	15,849	14,160

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	特別展は開館以来年3回開催しているが、平成19年度は企画展を1つ追加開催した。企画展「科博コラボミュージアム in 平塚ー今年はどうなる年」は国立科学博物館理工学部門と共同で実施した。「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行った。これらにより特別展事業の充実を図ることができた。	平成20年度は夏期特別展「こだわりの100選」展、秋期特別展「金目川物語」展、春期特別展「加藤あきさんのスケッチ帳より」展の3回開催し、「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行いました。これらにより特別展事業の充実を図ることができました。	世界天文年に因んだ夏期特別展「ガリレオから400年」展に続き、秋期特別展「山と海を結ぶ道ー相模川・相模湾の水運ー」展、春期特別展「検証 相模国府」展の計3回を開催しました。「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、実演や発表会を行いました。企画展示「深海・相模湾に潜る」においても最近の成果を報告しました。展示期間中は多彩な関連行事を実施し、事業を充実することができました。	夏期特別展「市民が探る平塚空襲」、冬期特別展「開運! 招福! 相州だるま」展を開催しましたが、春期特別展「深海から生まれた湘南」展は、直前に発生した東日本大震災とその後の節電協力のため4月に延期しました。結果、指標の日数・入館者数がやや減少しました。夏期特別展は市民と協働で積み重ねた調査を基礎に、空襲の実態を明らかにし、展示しました。「博物館まつり」は博物館のサークル活動の成果を展示して、市民が地域の自然・歴史情報を博物館に集積する活動を紹介できました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考えます。	博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実は欠かせないと考えます。	図録・ポスターのレイアウト負担などで経費を軽減しており、解説パネルも自作するなど制作現場を効率化しています。今後はこうした環境下で、一層の内容充実を図り、市民参加や展示テーマの工夫によって来場者の満足度を高める必要があります。	刊行物やパネル制作など外注部分の一部を館内制作に切り替えて経費を軽減しています。今後は一層の内容充実を図り、一方で視点の異なる展示テーマを採用するなどして、利用者層の拡大に努めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	魅力ある展覧会開催事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	観覧者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
小中学生対象の展覧会や、知名度のある作家や映像作品展等を開催することにより、新たな観客層が増加しています。		国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	企画展・特集展開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	12	13	12	12		
	実績	12	12	11	9		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	企画展・特集展観覧者数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	60000	80000	80000	80000		
	実績	118839	76286	92260	95049		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	開館20周年を迎えて、多様な展覧会を開催していきます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多くの市民に関心を持たれる展覧会の開催と今後も市民の満足度を高められるよう事業を継続します。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市民の芸術・文化の振興という目的に合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	巡回展の開催で経費節減を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	23,241	22,996	39,113
	一般財源	42,857	30,135	20,819	0
事業費 (A)		42,857	53,376	43,815	39,113
執行率 (%)		93.17	106.75	87.63	90.92
内訳	職員 (人)	3.55	3.55	3.05	3.05
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.10	0.10
人件費 (B)		29,789	29,789	25,831	25,531
フルコスト (A+B)		72,646	83,165	69,646	64,644

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -	②:若干遅れている より質の高い展覧会を目指したため、作品の借用が進まなかったためです。
	主な取組と成果	動物彫刻展、学校教材である宮沢賢治展や地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、11万人を超える大規模な観覧者増となった。	絵本作家の田島征三展や速水御舟展、地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、7万6千人を超える観覧者数となりました。	日本を代表する絵本作家のいわさきちひろ展や日本のカー・デザイン展、所蔵品の展覧会など年間11本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、9万人を超える観覧者数となりました。特に、いわさきちひろ展は、歴代1位・観覧者を記録し多くの方々に楽しんでいただくと共に平塚市美術館をアピールできたものと考えています。	公立美術館初の回顧展となる長谷川湊二郎展や堀文子展、所蔵品の展覧会など年間9本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、昨年度に引き続き9万人を超える観覧者数となりました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざす。	親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。	親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。	魅力ある展覧会を行い、リピーターの増加をめざします。